白い学舎

令和8年9月
富合小 学校便り No.4

文責:校長 村上剛史

学校教育目標: ～自他を大切にし、学び合いを楽しみ、高め合う子どもの育成～
重点取組: ①話をよく聞き、相手がうれしくなる言葉、元気になる言葉をかけよう
②チャレンジして、失敗から学ぼう

◆あいさつが響く学校から

２学期が始まり、半月が過ぎました。校門付近で登校してくる子どもたちの安全を見守っていると、日差しが和らぎ、心地よい風に秋の訪れを感じます。

学校生活においても、実りの秋を感じる出来事があります。それは、進んであいさつをする子どもたちが増えてきたことです。登校時には「おはようございます」、日中には「こんにちは」、下校時には「さようなら」と、明るい声が校内に響いています。以前よりも自分からあいさつをする姿が多く見られるようになりました。子どもたちが互いを認め合い、自分に自信をもつ姿が少しずつ増えてきたことを実感しています。子どもたちの成長を大変うれしく感じています。

今年度、本校では「自他を大切にし、学び合いを楽しみ、高め合う子どもの育成」を教育目標として、「安心できる居心地のよい学級・学校づくり」に取り組んでいます。その核となるのが、「共感力」と「自己回復力（レジリエンス）」の育成です。

あいさつによって人と人とのつながりが生まれます。つながりの中で「認められている」「気に掛けてもらえている」という安心感が育まれます。その安心感が、困ったときや失敗したときに立ち直る力、すなわちレジリエンスの土台になります。

また、あいさつは、相手の存在を認め、自分から心を開く行為です。「うれしくなる言葉」「元気になる言葉」とともに、人と人とのつながりを深め、互いを大切にしようとする気持ちを育みます。その積み重ねが共感力を高め、安心して過ごせる学校づくりにつながっていくものと考えています。

ご家庭におかれましても、朝のあいさつや感謝の言葉、励ましの言葉などを意識して交わしていただければ幸いです。子どもたちは、学校だけでなく家庭や地域の中で育っていきます。学校と家庭がともに手を携えながら、子どもたちの健やかな成長を支えていければと思います。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。子どもたちの明るいあいさつが、これからも学校いっぱいに広がっていくことを願っています。

◆まずは、本を手にとってみよう！

前段で「共感力」と「自己回復力（レジリエンス）」について少しばかり述べました。読書は、楽しみながらその２つの力を高める、まさに絶好の教材だと思います。そこで、関係職員が図書館と読書活動の充実を図るため、努力と工夫を重ねています。

このたび、公益社団法人熊本法人会様、そして、雁回山長寿寺様から図書を寄贈いただきました。校長室において、児童代表に目録が手渡されました。代表の図書委員長と副委員長は、「全校児童の読書数が増えていくよう、委員会の仕事を頑張ります。」とお礼を述べ、寄贈いただいた本を興味深そうに眺めていました。

本との出会いは、一冊を手に取ることから始まります。まずは図書室に足を運び、一冊の本を手に取ってみてほしいと思います。そこから読書の楽しい世界が広がっていくことを願っています。

保護者の皆様も、ぜひお気軽に図書室へお立ち寄りください。

そして、本を手に取ってご覧いただき、お子さんが喜びそうな一冊を探してみてはいかがでしょうか。